

南アフリカ為替週報

2022年3月17日 | みずほ銀行欧州資金部

〈過去1週間の動き〉 (3月10日～3月16日)

USD/ZAR: 14.9700～15.1800
ZAR/JPY: 7.65～7.92 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、近年のランドとしては小動きと言える値幅を方向感なく上下動。ただし、対ドルでは小動きだったランドも、対円ではほぼ一方的な堅調を支配的とし、明確に水準を切り上げた。対円でのランド上昇は、とりもなおさず円全面安の結果で、①世界的な長期金利上昇局面で、日長期金利だけが上げあぐねている事実 ②燃料価格の高騰/高止まりで日経常収支の悪化(赤字基調)が定着するといった思惑などがその背景にあったものと考えられた。金融市場全般の関心は、引き続きウクライナ情勢に集まっており、ランドの(対ドルでの)膠着も、南ア金融資産に対する関心の低さの反映と受け止めることができた。同じ文脈で、地理的な距離(遠隔さ)やロシア産燃料、ロシア/ウクライナ産食料に対する南ア経済の(相対的)依存の低さが、同じ新興市場通貨の中でも、(中/東欧通貨などとの比較で)ランドの強みと受け止められた可能性も考えられただろう。南ア固有の要因では、10日発表された南ア第4四半期経常赤字が、(引き続き大幅な黒字ながらも)市場予想を大きく下振れた事実は、想定以上の経常黒字定着がランド押し上げ/高止まり要因として織り込まれてきた経緯に鑑みて、ランドにとって悪材料には違いなかった。それでも、10日の時点で、金・プラチナなどの南ア主要輸出品が7ヵ月ぶりの高値圏にあった(=南ア交易条件の改善)こともあり(その後現在までに急落してしまっただが)、通貨市場も殊更大きな反応は示さなかった。

〈過去1週間に発表された主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
3/10	9:00	経常収支(ZAR)	Q4	+120bn	+147bn	+216bnr
		9:30 鉱業生産(前年比)	1月	+0.1%	+1.4%	-1.0%r
		11:00 製造業生産(前年比)	1月	+1.9%	+2.6%	-0.2%r
3/16	11:00	小売売上高(前年比)	1月	+7.7%	+4.9%	+3.2%r

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

〈向こう1週間の見通し〉 (3月17日～3月23日)

USD/ZAR: 14.850～15.150
ZAR/JPY: 7.80～8.00

向こう1週間の南ア・ランド相場は、方向感の交錯した膠着を予想。金融市場全般の関心がウクライナ情勢に集中する状況が、早晚、変化する可能性は低いように思われる。ランドの先行きを占うのも、戦争の先行きを占うのと同じぐらい難しい作業となろう。一方で、(開戦前との比較で)まだまだ大幅安水準にあるとは言え、ロシア・ルーブルが大幅に反発している事実や、原油価格や金価格がほとんど元の水準まで低下している事実をどう解釈すべきか、答えは容易に見つからないのではないかと。米連銀が利上げサイクルに突入したことで(16日、+25b.p.)、南ア準備銀金融政策動向に市場の関心が向く可能性は考えられるだろう。世界的な燃料価格、食品価格などの高騰を受け、2月末以降、南ア準備銀による積極的な利上げの織り込みも進んでいるし、そこに相応の説得力があることも認めるが、過去1年余り、南ア短期金利市場(金利先渡契約など)には、常に過大な利上げ期待を織り込んできた経緯があり(注1)、足元急速に膨らむ南ア準備銀大幅利上げ期待を、素直にランド押し上げ要因と読むにも躊躇が感じられる。他にも、南ア電力公社(Eskom)による計画停電が断続的に続いている現状や、先月23日に発表された南ア予算が、年金基金など南ア機関投資家の外貨資産運用比率に関し、従来の(運用資産の)30%から45%への上限大幅引き上げ方針を盛り込んだ点などは、ランド売り方向の材料と目される一方、ラマポーザ大統領が、11日、与党アフリカ民族会議(ANC)内の革新的経済移行派(ズマ前大統領派)の抵抗を押し切って、ゾンド副主席判事(注2)を主席判事に指名した事実(4月就任予定)などは、ラマポーザ大統領の与党内基盤強化の一環として好感できる要因のように思われる。

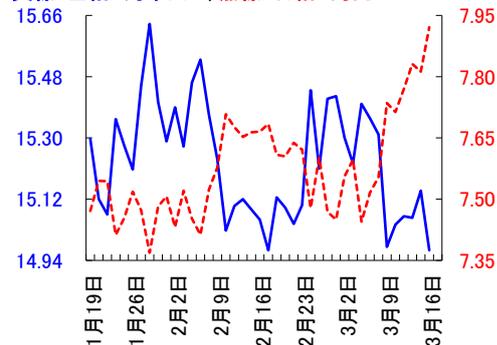
〈向こう1週間に発表予定の主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
3/23	8:00	CPI(前年比)	2月			+5.7%

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

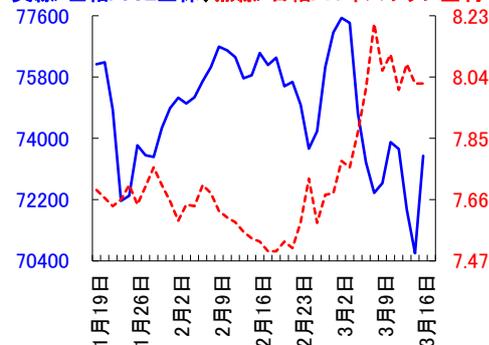
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		4.00%
長期金利(10年スワップ)	3月16日	8.020%
株価指数(JSE全株)	3月16日	73484.30
成長率(GDP/前年比)	Q4	+1.7%
経常収支(ZAR)	Q4	+120bn
失業率	Q3	34.9%
消費者物価(前年比)	1月	+5.7%
小売売上高(前年比)	1月	+7.7%
製造業生産(前年比)	1月	+1.9%
鉱業生産(前年比)	1月	-0.1%
貿易収支(ZAR)	1月	+3.6bn
金価格(ロンドン17:00)	3月16日	1910.20

(注1) ちょうど1年前(21年3月)、例えば12x15物FRAは、5.0%に手が届きそうな水準で取引されていたが、12ヵ月を経て、足元3ヵ月物JIBAR水準は4.3%未満にとどまる

(注2) ズマ前大統領一派の「国家収奪(state capture)」疑惑を追及するゾンド報告書の主筆として存在感を示してきた